

## 2024年度 SDGsセンター員が決定しました

2024年度の各研究科・データサイエンス学部のSDGsセンター員が決定しました。センター員は、本学が行うSDGsに関する事業の推進及び調整に努めるとともに、各研究科等における連絡調整をしています。

### 【センター長】

林 秀敏

### 【副センター長】

高桑 修 (医学研究科)  
曾我 幸代 (人間文化研究科)  
金子 典代 (看護学研究科)  
熊澤 慶伯 (理学研究科)

### 【センター員(各研究科・データサイエンス学部)】

奥田 勝裕 (医学研究科)  
富田 淳 (薬学研究科)  
濱口 泰代 (経済学研究科)  
馬渡 玲欧 (人間文化研究科)  
大野 暁彦 (芸術工学研究科)  
尾崎 伊都子 (看護学研究科)  
鈴木 善幸 (理学研究科)  
小山 聡 (データサイエンス学部)

## 「名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班」診療所開所に向けて準備中！

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所はボランティア活動を通じた社会貢献を目的として、平成10年に蝶ヶ岳山頂(2,677m)直下にある蝶ヶ岳ヒュッテ内に設置されました。この活動は今年で27年目になります。

本診療所は高地医学、遠隔地医療及び環境保全に関する研究・教育の場としての役割も備えており、毎年7月中旬～8月中旬の期間に学生、教員、卒業生などが診療活動に参加しています。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止や規模を縮小して実施していましたが、コロナ禍を乗り越え、学生と教員が協力して7月24日の診療所の開所に向けて準備を進めています。

診療所開所中は学生が交代で蝶ヶ岳ヒュッテに宿泊して、医療スタッフの診療をサポートします。

学生は診療所内に24時間待機し、早朝や夜間でも患者さんを受け入れる体制を整えています。

さらに、診療所の周知や体調不良者の早期発見を目的として登山者に声掛け活動(予防的介入活動)も行います。



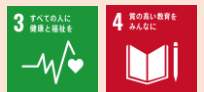
毎日午後8時から行う  
症例検討会



隔日の午後7時から行う  
「雲上セミナー」

詳細は以下のWEBサイトからご覧いただけます。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/science/contribution/chogatake/>



## キャンドルナイトinあいちに芸術工学部の学生が作品を出展しました



芸術工学部の学生による  
キャンドルアート

3月25日(月)、愛知県が主催する環境イベント「キャンドルナイトinあいち」に芸術工学部学生チームがキャンドルアート作品を出展しました。

このイベントは子どもから大人まで、より多くの方々に「地球環境のこと」を今一度考え、ライフスタイルの転換につなげてもらうことを目的として開催されています。

この作品は、地球環境について考えるきっかけになってほしいという思いが込められており、自然の美の象徴である花を題材とし、花を積み重ねることで、自然の連鎖と時代の蓄積を表現しています。

イベント当日の様子はYouTubeのアーカイブ配信からご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/channel/UCk2SW12sqWdJriO4G9xC9vg>





コラムの第4回は、環境アクションプランについてです。本学では、「環境問題の解決に挑戦し、貢献する大学」をめざすため、総務部総務課を事務局として平成20年5月に環境委員会を設置し、環境憲章の制定、環境マネジメントシステムの構築をしているほか、『環境アクションプラン』を策定し、全学をあげて様々な取り組みを推進しています。

そしてその内容は3年ごとに見直され、この春、令和6～8年度版のアクションプランが新たにスタートしました。前プラン（令和3～5年度）から引き続いて取り組む項目に加え、今回新たな取り組み項目も追加されていますので、一部ご紹介したいと思います。

環境報告書（事務担当：総務部総務課）

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/environment/report/>

## 環境アクションプラン（令和6～8年度）に新規追加された項目（抜粋）

### 基本方針 2

学生の学内、地域社会、国内外における環境保全活動への自主的な参画・取り組みに対して積極的に支援していく



New

SDGsセンターとして学生のSDGsに関する活動を学内外に発信する

#### <具体的な取り組み項目>

- 本学学生へSDGsに関する活動を発信する機会を提供する。
- 学生のSDGsに関する活動の各種広報媒体等を通じた情報発信を実施する。

### 基本方針 5

環境負荷低減のために、環境マネジメントシステムに沿って行動計画（アクションプラン）を策定し、キャンパス内で省エネルギー・省資源に積極的に取り組み、実践していく



New

#### 救急災害棟での取り組み

救急災害医療センター建設にあたり、省エネ型機器やシステム等の採用に努めるなど、エネルギー消費の低減に努める

#### <具体的な取り組み項目>

- 建築：断熱性能の高い複層ガラスの採用や室内日射抑制を図るバルコニー等の設置
- 空調設備：高効率なコージェネレーションシステムや地中熱利用空調システムの採用
- 衛生設備：節水型器具及び自動水栓の採用
- 電気設備：LED照明器具の採用。人感センサーやスケジュールによるこまめな制御



SDGsセンター長  
林 秀敏 先生

令和6～8年度に取り組む環境アクションプランがスタートし、意識啓発の情報発信や省エネルギーに配慮した新棟の建設といったソフト、ハードの両面での新しい取り組み目標が定められています。環境問題に目を向け、その解決に貢献していくことは、ゴールが見えづらく、遠く険しい道のりかもしれませんが、『千里の道も一歩から』。大学として、個人として、達成すべき目標を立て、持続可能な社会の実現に向けてそれぞれが出来ることに取り組み、一歩ずつ社会全体で歩みを進めていきましょう。

## お問い合わせ

名古屋市立大学SDGsセンター事務局  
(企画課内)

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

Tel : 052-853-8806

Mail : [ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp](mailto:ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp)

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/>

